

An investigation into the syllable-extraction skills of children with hearing impairments by the Kanazawa Method

著者	外山 稔
著者別表示	Toyama Minoru
journal or publication title	博士論文要旨Abstract
学位授与番号	13301甲第4997号
学位名	博士（保健学）
学位授与年月日	2019-09-26
URL	http://hdl.handle.net/2297/00059271

doi: <https://doi.org/10.24517/00055101>






令和元年 8 月 8 日

博士論文審査結果報告書

報告番号 _____
学籍番号 1529022015 _____
氏 名 外山 稔 _____

論文審査員

主 査 (教授) 染矢富士子 
副 査 (教授) 柴田克之 
副 査 (教授) 少作隆子 

論文題名 An investigation into the syllable-extraction skills of children with hearing impairments by the Kanazawa Method (金沢方式による聴覚障害幼児の音韻抽出能力の検討)

論文審査結果

【論文内容の要旨】

聴覚障害幼児は、健聴児と比べて聴覚を経由した情報入力が不十分であるため、話し言葉の習得が遅れるとされる。今回の研究目的は、聴覚障害児について、書き言葉の理解を早期から導入することによって、音韻抽出の発達に寄与できるかどうかを検証するものである。対象は、金沢大学附属病院で 0～4 歳に先天性聴覚障害と診断され、同音声言語外来において継続的な指導を受けた 4～6 歳の幼児 68 名で、言語能力は、幼児・児童読書力テストを用いて測定した。その結果、同月齢健聴児の平均値以上の読解力偏差値を有した児は 61 名、平均を下回った児は 7 名であった。そこで、各検査課題のうち、「語の理解（聴覚口話）」、「音韻の分解」、「音韻の抽出」、「文字の認知（文字言語）」、「文の理解（文字言語）」の 5 項目の成績、「月齢」と「平均聴力レベル」を加えた 7 変数に関して検討した。「音韻の抽出」を従属変数とした重回帰分析では、「月齢」と「文字の認知」が統計学的に有意であり、独立変数同士の重相関係数では、「文字の認知」、「月齢」、「語の理解」の 3 つの変数が因子として選択された。「文字の認知」では書き言葉の理解の指導により、単語内の音の羅列を文字の羅列に相互変換し、異義語（雨-亀）や同音異義語（雨-鉛）の判別入力有意義であったこと、「語の理解」では、書き言葉による視覚的な意味理解を経て話し言葉に移行する指導により、「音韻の抽出」の発達を支えたことが考えられた。以上により、聴覚障害幼児において、書き言葉の理解を早期から導入することで、健聴児と同様の時期に音韻の発達を遂げることが示された。

【審査結果の要旨】

本研究では、従来問題となっていた聴覚障害児の言葉の発達の遅れを解消できる方策があることを示しており、社会的にも非常に有益な報告となっている。本結論は当該研究領域における新規な知見になると判断される。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終審査の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。